

平成27年度 事務事業評価シート

事業概要

事務事業名		鳥獣関係対策事業							担当部		地域活性化営業部					
会計区分		一般会計			事業類型		実施計画事業以外			担当課		農政課				
事業期間		平成12年度以前			～			平成31年度以降			担当係		農業振興係			
総合計画 分野別計画	主目的	5 産業・交流 19 農業 1 農業経営に安定化を支援します														
	副目的											実施計画対象				
予算区分		款	6		項	1		目	3		大	5		中	1	
根拠法令・個別計画		鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律														
目的 (対象をどのような状態にするのか)		鳥獣等による生活環境、農業の生態系に係る被害を防止する。														
内容 (手段)		○26年度実施内容 市民へ捕獲箱貸し出しにより、ヌートリア・アライグマ等の処理を実施した。ハチは業者を紹介する。(スズメバチは1万円の補助、ミツバチは5千円の補助、足長バチは補助無し ※但し、高さ等困難な場所での処理は、加算額が発生する。) ヌートリア等の捕獲は無料(職員が捕獲箱を設置し、捕獲後回収する。) カラスの捕獲については、業者委託した。 シルバー人材センターに委託してジャンボタニシの駆除を実施した。 【26年度直接経費の内訳】 ハチの処理謝礼(1,395千円) 普通旅費(2千円)、消耗品費(23千円) 有害鳥獣駆除委託料(2,474千円) 有害鳥獣処理委託料 86千円 有害鳥獣駆除委託料 1,373千円 カラス駆除委託料 1,015千円 移入種駆除委託料(594千円) ※ジャンボタニシ駆除 業務用備品購入費(30千円) 【27年度直接経費の内訳】 講師謝礼(210千円) ハチの処理謝礼(1,475千円) 普通旅費(60千円)、消耗品費(34千円) 有害鳥獣駆除委託料(3,443千円) 有害鳥獣処理委託料 126千円 有害鳥獣駆除委託料 1,373千円 カラス駆除委託料 1,944千円 移入種駆除委託料(595千円) ※ジャンボタニシ駆除 業務用備品購入費(45千円)														
受益者負担		無														

コ ス ト			単位	H24決算額	H25決算額	H26決算額	H27予算額	
	費用	直接経費		千円	5,328	4,877	4,518	5,862
		正職員	従事者数	人	0.20	0.20	0.20	0.20
			人件費	千円	1,052	1,052	1,052	1,052
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計		千円	6,380	5,929	5,570	6,914
		対前年比		%		92.9	93.9	124.1
	財源	一般財源		千円	5,533	5,929	5,570	6,914
		国・県支出金		千円	847	0	0	0
		その他財源		千円	0	0	0	0

業 績	活動指標名	単位		H24	H25	H26	H27
	ハチの処理補助件数	件	目標	—	—	—	—
			実績	125	113	132	
	ヌートリア・アライグマ の捕獲	匹	目標	—	—	—	—
			実績	50	21	34	
	カラスの捕獲機設置件 数	件	目標	—	—	—	—
			実績	2	2	2	
	成果指標名	単位		H24	H25	H26	H27
	カラスの捕獲数	羽	目標	700	1,050	1,150	1,000
			実績	812	602	617	
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成26年度の実施結果	事業の達成状況	市民生活及び農作物への被害防止するため、ヌートリア等の捕獲駆除を実施し一定の効果をあげることができた。 ジャンボタニシについても、シルバー人材センターに委託しジャンボタニシの卵の駆除を行い一定の効果をあげることができた。	
		事業実施における課題	ヌートリア等の捕獲について、現在、捕獲檻の貸出、回収のすべての作業を農政課職員で行い相当の時間を費やしている。 ハチ駆除については、補助制度を廃止した自治体もあるものの、依然要望も多く維持必要がある。	
		事業を縮小・廃止したときの影響	事業を縮小・廃止すると、生物多様性の観点から生態系が壊れる可能性があり、また、カラス・ヌートリア・アライグマなどによる農作物への被害が拡大も危惧され市民生活に影響を及ぼす。	
	平成27年度の改善内容	27年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	所有している4個の有害鳥獣用の捕獲檻に、小形動物用捕獲檻を3個追加し、設置場所や設置のしやすさを向上させ捕獲数を上げる。	
	平成28年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
		判定理由	昨今、生物多様性の観点から外来種動物(有害鳥獣)への市民の関心が高く、また、その個体数の管理もあり事業を縮小するわけにはいかない状況にあるため。	
		28年度以降の改善案	外来種動物(ヌートリア・アライグマ等)の有害鳥獣駆除について、捕獲檻の個体数を増やす。檻設置から回収、処理まで一連の作業を専門業者に委託を検討したが、委託料が高額であることから、春日井市を始め委託から直営に切り替えているところもあり、今後は、猟友会と連携し、回収などお願いできないか検討していく。	

二次評価	方向性の判定		判定理由
	維持		一次評価のとおり。 ハチ駆除については、補助制度を廃止した自治体もあることから、今後の事業のあり方を見直すこと。 外来種動物の有害鳥獣駆除について、市民の役割や負担についても十分に検討すること。